

UNITE FOR GOOD

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

白
信



2025

8

Rotary 
第2820地区

国際ロータリー 2820 地区
2025-2026 年度
ガバナー 瀬戸隆海

UNITE FOR GOOD

よいことのために手を取りあおう

目 次

8月は 会員増強・新クラブ結成推進月間 です

RI 会長メッセージ3	我がクラブ紹介 日立RC 日立南RC 高萩RC 北茨城RC 日立港RC 日立北RC 日立中央RC 15
ガバナー メッセージ5	ガバナー時代回顧録 19
8月～特別月間によせて 「会員増強・新クラブ結成促進月間」7	地区大会のご案内 21
地区総括委員長あいさつ クラブ奉仕委員会 社会奉仕委員会 国際奉仕委員会 青少年奉仕委員会 ローターアクト委員会 ロータリー財団委員会 米山記念奨学会8	地区予定表・編集後記 23
	国際大会 in カルガリー 24

※今回のRI会長交代に関連しまして、今月号の寄稿文の中にRI前会長のお名前が使われていますが、交代前に文章作成されているため、作成時点のままの名称で掲載しておりますのでご了承ください。

題字・表紙写真

8月 みやび絵歳時記

なつざか 光の奥に 花の声

作者 澤田 憲一

いよいよ夏本番です。強く照り差す光の奥には、夏の花が咲き乱れるなか、
暑いね～、眩しいね～、と声をかけあっているのでしょうか。
今年も、猛暑が続きますが、御自愛下さい。



RI 会長メッセージ

2025-26 年度国際ロータリー会長

フランチェスコ・アレツツォ
(ラグーザ・ロータリークラブ：イタリア)

親愛なる友人の皆さま

2週間前、私は自宅の居間で孫たちと遊んでいました。その数日後、私はカルガリー行き
の飛行機に乗り、この素晴らしい組織を率いるという突然の責任を負うこととなりました。
人生はあっという間に過ぎますが、自分がいるべき場所に導いてくれるものです。

今年度の始まりに、次の明確なメッセージをお伝えしたいと思います：よいことのため
に手を取りあおう。シンプルながら、力強いフレーズです。ロータリーでは、あらゆる取
り組み、日々の奉仕、入会してくる新会員、世界的な課題への対応の裏に、二つのことが
あります。それは「友情」と「信頼」です。

強いクラブは、友情と信頼によって築かれます。私たちは、友情と信頼のもとに有意義
なパートナーシップを築き、世界的な問題を各地域で解決へと導きます。私たちは、肩書
や称賛のためでなく、謙虚さ、人間性、思いやりをもってリーダーシップを発揮します。
しかし、実のところ、このようなリーダーシップは必ずしも簡単ではありません。私たち
は人間であり、間違えることもあります。意見が対立することもあります。ロータリー
ではより大きな視点が求められます。ロータリーのビジョン声明の全文を見てみましょう：

「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生む
ために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」

特に肝心なのは、「自分自身の中で」という部分です。なぜなら、変革とは戦略から始
まるものではないからです。変革は、一人ひとりの人格や互いへの接し方から始まります。
どのように耳を傾け、サポートし、奉仕するかということから始まるのです。

今年度、そのことを胸にリーダーシップを発揮していただくようお願いいたします。関

係を通じてロータリーを成長させ、より親しみやすく、柔軟で、新しいアイデアを受け入れるクラブとなり、1年という枠を超えてビッグに考えてください。私たちの任期はあっという間ですが、継続性とビジョンを持って計画、行動すれば、末長いインパクトを生むことができます。私たちの優先事項が、会員増強、ポリオ、平和であることも忘れないようにしましょう。かつてないほどポリオの根絶に近づいていますが、ここで歩みを止めるわけにはいきません。世界の子どもたちとの約束を守らなければなりません。また、ロータリーは1世紀以上にわたって平和を構築してきました。安全な水のシステム、青少年交換、母子の健康プロジェクトなど、あらゆる活動が平和へのステップとなります。

私が若き職業人としてロータリーに入会したとき、役に立ちたいと強く思っていました。が、人前で話すことを恐れていました。ロータリアンの仲間たちが私を信頼し、さまざまな役割を担うよう背中を押してくれました。そうする中で、ロータリーが私の人生を変えました。ロータリーは、勇気と目的を与えてくれました。何よりも、皆さま、すなわち世界中の友人、チーム、ファミリーを与えてくれました。

友人の皆さま、引き出しの奥にしまっていた夢、特に大きすぎたり大胆すぎたりして実現できないと思っていた夢を、取り出すときが来ました。その夢に光を当てましょう。クラブ、地域社会、そして世界のために、よいことのために手を取りあおうではありませんか。リーダーとして奉仕するだけでなく、喜び、つながり、愛に満ちた1年といたしましょう。

感謝と敬意を込めて

2025-26 年度国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツツォ



ガバナーメッセージ

国際ロータリー2820地区
2025-2026年度ガバナー
瀬戸 隆海（水海道RC）

ロータリーファミリーの皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

新しいRI会長に、フランチェスコ・アレツツォ氏（イタリア・ラグーザ RC 所属）就任されました。6月22日に開かれた世界大会での日本人朝食会の席にお越しいただきました。とても気さくな方でした。その席でのスピーチで、「私は孫とリビングで遊んでいたところに、電話がかかってきました。とても驚きました。RI会長になるためには2年の月日をかけて準備をいたしますが、私はたった2週間で準備をしなければなりません。今回の世界大会の登録も同じです。まったく準備をしていませんでしたが、突然の電話で飛行機の手配や、荷物をまとめたり・・・」と、突然の出来事をジョークを交えて話してくれました。

皆様方にも6月9日の朝、突然としてマリオ会長エレクト辞任のメールが届いたと思います。えっ!?!、何故この時期にと大変驚きました。一体、RIでは何事起こっていたんだろうと考えてしまうし、マリオ会長エレクトに何事が起きたのだろうと思う反面、我々会員はどう対処していいのだろうかと、我々ガバナーの仲間同士で意見を交わしました。

それにしても、我々の対応もさることながら、突然としてフランチェスコ・アレツツォ氏がRI会長に就任されるという事は、並々ならぬ決意が必要ではなかったのでしょうか。さて、6月8日に行われました第2回会長幹事会の席において、ガバナー旗を大高ガバナーより引き継がせていただきました。それ自体はたいして重いものではないですが、しかしながら一年の重責を預からせていただく重みは、甚大なものでありました。大高ガバナーは、とても数字的にも内容についても分析力が優れていて、それを行動に起こされ、地区目標を悉く達成したどころか、全国でも有数の実績を残されました。

昨年2月だったでしょうか、当時大高ガバナーと藤木ノミニーと三人で今後の地区の在り方について話し合いました。つまり地区行動推進計画であります。RIの行動計画として、会員を増やしなさい、そして新しいクラブを作りなさいという目標指示がありました。新しいクラブを作るということは、その地域で20名以上のロータリアンを勧誘しなさいということです。今年の規程審議会でも、新クラブは15名の会員で創立するという事にハー

ドルが下がりましたが。でも新しいクラブを作るという事は、並大抵のことではないです。しかし、大高ガバナーは衛星クラブというクラブに着目し、大高年度に6つのクラブを立ち上げました。これに至るには、クラブ奉仕委員会の並々ならぬ情熱が注がれた結果であります。

我々人間は、日一日年齢を重ねていくわけであります。若い年代がクラブ会員に入らない限りは、クラブ事態に老齢化が進んでいるわけであります。5年以内に若い会員の入会がないクラブは、老齢化どころか消滅にまで追い込まれることもあります。

若い会員が入らないという原因に、親子で入りたくないという理由があります。この原因を排除するには、衛星クラブを作り入会を勧める事であります。せっかくの若い人材をみすみす逃すことはないです。衛星クラブにおいて、ロータリーとは何ぞや、ロータリーは奉仕と寄付の世界。奉仕を通じて仲間たちと切磋琢磨し成長していこうと、先輩たちが行動を示していただきたいと思います。

今や、旧来形式のロータリーを続けていくクラブもあれば、新しい形のロータリーを続けていくのも有であります。そのクラブの特性というか、目的意識を持っていただき、新しいロータリーづくりを押し進めていただきたいと思います。





8月～特別月間によせて 「会員増強・新クラブ結成促進月間に因んで」

国際ロータリー2820地区
パストガバナー

大久保 博之（水戸RC）

国際ロータリークラブの提唱する会員増強は、クラブの基盤を強くし、クラブの成長を促し、その社会貢献活動を強化するために重要です。会員が増えることでより多くの人々に奉仕活動を届けることができ社会的な影響力を広げることができるからです。

特に今ロータリーは会員の多様性を推進しています。性別、年齢、職業、文化的背景など様々なバックグラウンドを持つ人を多く集めることでより多くの視点が集まり、クラブの活動に新しいエネルギーとアイデアが加わります。一人だけではなく多くの知恵を集めることによって奉仕もグレードアップし市民の共感を得られるのです。

単に奉仕だけならライオンズクラブでも、NGOでも、キワニスクラブでも良いのでは？と考える人もいると思います。しかし私たちには「職業的倫理観を高めることを通じて奉仕する」という歴史的に紡がれた理念「4つのテスト」や「超私の奉仕」といった綱領があります。これはロータリーある限り普遍の存在意義として芯となるものです。ですからクラブの使命とビジョンを理解したメンバーを迎えることは大事です。または、新入会員の理解を深める機会をつくるのが肝要です。

これを守る限りロータリーはロータリーなのであり、あとは多様性をもって改革をしていくべきだと思います。

さてもう一つ、歴史のあるクラブには歴史に基づく伝統や格式、習慣が出来上がっているものです。伝統あるクラブにはそれらを愛する人も多く、それが支持されているうちはマイナーチェンジで良いのですが、新しい感覚で違った奉仕の切り口を実現したいという場合、例えば「国際平和の奉仕に特化したい」とか、「青少年育成の育成に特化したい」「地域の活性化に特化したい」人には（ロータリーの綱領を守る限り）同志を募り新しいクラブの結成をお勧めします。新しい時代の地域のニーズに応じた形で伝統や格式に縛られないクラブがあっても良いと思うのです。

茨城の各地域の活性化の為に知恵を出し創意工夫で時代を切りひらいて参りましょう。



委員会の方針と展望 ～クラブ奉仕委員会

国際ロータリー2820地区
クラブ奉仕委員会 総括委員長

井上 誠（下妻RC）

ロータリーの灯を未来へ—会員の笑顔を紡ぐ活動

今より92年前の1933年の国際大会において、ポール・ハリスは多くの方々の前で次のように語りました。「ロータリーはあらゆる職業や地位の人々に開かれています。（中略）ロータリーの才知と栄光はまさにここにあります。」

時を経て2025年2月10日、マリオRI会長は「よいことのために手を取りあおう」というメッセージを掲げ、「財産は会員。（中略）変化する世界に適応する。将来のロータリー会員はどこにでもいます。私たちはそこに赴いて彼らを見つける必要があります」と述べ、革新しながらも一貫した伝統を築くことの重要性を語りました。

さらに、3月3日には瀬戸ガバナーより「時は今 ところ足元 そのことに 打ち込む命 永久の御命」という指針をいただきました。この言葉を深く考えた結果、「永久の御命」とは、命が途絶えても、百年経ってもロータリーの灯火が、地域と世界を優しく照らし続けることを意味するのではないかと解釈に至りました。「足元」とは、会員の維持・増強・居心地の良さを指し、それに精一杯取り組むことこそが、今の私たちの使命であると確信しています。

今年度、クラブ奉仕委員会は2820地区の戦略計画に基づき、瀬戸ガバナーの指針のもと、全ての活動を「すべての道は会員の笑顔に通じる」との理念で展開します。

委員会責務として、◎会員増強達成の支援◎会員維持の支援◎DEIの促進◎公共イメージの向上◎MyRotary活用推進◎定款細則変更支援◎リ・ブランドの検討

具体的な活動として、2820地区54クラブが「よいこと共有」を通じ、他クラブの工夫や

自慢を共有する仕組みを確立し、居心地の良いクラブ・楽しいクラブ創りを支援することで地区会員の維持を図ります。また、会員増強については、3つの柱を中心に推進します。

①既存RCの増強 ②RSC(衛星クラブ)の増強 ③新クラブ設立による増強。各クラブが8%の会員増強を達成できるよう全力で支援し、ガバナー補佐と連携しながら、持続可能な地区会員増強体制の確立を目指します。

この責務を果たすにあたり、これまで地区が歩んできた歴史、そしてクラブ総括委員長の皆様が築かれてきた基盤を継承し、さらなる地区の発展に尽力していく所存です。昨年同様、北から南、山から海まで、ひとつひとつのクラブを全身全霊で支援させていただきます。2820地区全体目標達成には皆さまのご協力が不可欠です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



委員会の方針と展望 ～社会奉仕委員会

国際ロータリー2820地区
社会奉仕委員会 総括委員長

黒木 雅宏（水戸西RC）

社会奉仕年次方針

本年度、社会奉仕総括委員長を拝命致しました黒木雅宏（水戸西RC）でございます。瀬戸年度におきまして社会奉仕活動をより活発にしていくために年次方針を発表させていただきます。

社会奉仕（Community Service）とはクラブの所在地または地方自治体内に居住する人々の社会生活の向上を目指していくために、時には他団体やグループと協力しながら会員が行うさまざまな取り組みです。ロータリアン一人一人の個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理想を適用することがとても大切なことです。この奉仕の理想の適用を実行することについては、各クラブが多彩な社会奉仕活動を行ない輝かしい成果をあげてきました。

社会奉仕は、ロータリアン一人一人が「超我の奉仕」を実証する機会です。地域に住む人々の生活の質を高め公共のために奉仕することは、すべてのロータリアン個人にとっても、また各クラブにとっても素晴らしい価値があり、社会的責務でもあります。

特に社会奉仕プロジェクトは

- ・地域社会に貢献できること。
- ・ロータリアンとして学びの機会となること。
- ・地域社会に対してロータリークラブの存在感を示すことができること。

が重要な課題となります。

地区委員会の役割としましては、各クラブにおける社会奉仕の成功事例や新規事例・地元団体、地区委員会、奉仕関連の他のグループとロータリークラブの連携を紹介することで社会への奉仕活動を援助しロータリークラブが地域社会共同体の中心となり各地域の皆様との友好な関係を築いていくことにあります。各自の才能や職業スキルをいかして奉仕プロジェクトを計画、実施するようクラブ会員に奨励することで職業奉仕を推進し社会奉仕活動を実施しているクラブを随時ご紹介していきます。

※ My Rotary より抜粋

「情報&リソース」⇒「リソース&参考資料」⇒「地区委員会」⇒「社会奉仕」

また、ラーニング形式 RLI（Rotary Leadership Institute）による研究会を開催していきます。従来の講演会方式から全員参加型の意見交換方式とし皆さんの意見を取りまとめ協議・検討していき、当地区での最適な方向性を皆さんと共に導きだしていくより実践的な研究会を行います。

我々ロータリアンは一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践していきましょう。1年間どうぞよろしくお願い致します。



委員会の方針と展望 ～国際奉仕委員会

国際ロータリー2820地区
国際奉仕委員会 総括委員長

村上 義孝（つくば学園RC）

2025-26 年度 国際奉仕委員会活動方針

今年度から、国際奉仕委員会の担当となりました、つくば学園RCの村上義孝です。昨年度までの5年間は米山記念奨学会の担当を務めておりました。これまでの留学生への奨学金事業と言う国際交流・国際協力の経験を活かし、精一杯、努力してまいります。

具体的には、委員会の方針として、

- ①国際奉仕活動事業参加クラブの支援、参加クラブの増加
- ②「この指とまれ」事業の推進
- ③財団グローバル補助金奨学生募集、選考の支援
- ④友好地区（フィリピン、タイ、ネパール）とのパイプ役としての活動

をおこなっていきます。ここで、「この指とまれ」事業について、少し詳しく説明させていただきます。この事業は、国際ロータリー第2820地区独自に実施している世界社会奉仕（WCS）プログラムで、趣旨としては、「一つのクラブでは資金的に困難な時、もう少し大きな事業をしたいとき、でも、ロータリー財団のグローバルグラントを使う程の事業ではないとき」事業の提唱クラブとなりプレゼンテーションを行い、地区内のクラブに賛助を募り、「賛助クラブがお金を出し合って事業を支援する」というプログラムです。

直近3年間の実績としては、

2022-23 年度 4 事業（日立・下館共同、しもだて紫水、結城、地区国際奉仕）

2023-24 年度 7 事業（日立・下館共同、古河中央、古河東、しもだて紫水、結城、つくばサンライズ、地区国際奉仕）

2024-25 年度 3 事業（日立・下館共同、しもだて紫水、地区国際奉仕）

となっております。例年、4月～6月に募集を行い、その後、7月にプレゼンを行い、賛助クラブを募集します。今後も、提唱クラブの魅力あるプロジェクトに多数の賛助クラブが集まり、内容の濃いグローバル事業が実施される事を期待しております。是非、多くのクラブからの積極的なご参加を国際奉仕委員一同お待ちしております。皆様の「奉仕と友情」の架け橋になれば幸いです。



委員会の方針と展望 ～青少年奉仕委員会

国際ロータリー2820地区
青少年奉仕委員会 総括委員長

宇留野 秀一（水戸南RC）

青少年奉仕委員会の総括と展望

本年度、第2820地区の青少年奉仕総括委員長を務めさせていただくことになりました、水戸南ロータリークラブの宇留野秀一です。

青少年奉仕委員会は「インターアクト」「青少年並びにライラ」「青少年交換」の三委員会から構成されており、未来を担う若い世代の育成を使命としています。

今年度は、昨年度の活動実績を基に、次の四つの基本方針を掲げます。

- ① 奉仕活動を通じて国際社会および地域社会への貢献を深める。
- ② 持続可能な開発目標（SDGs）達成に貢献する人材育成を目指す。
- ③ 危機管理の重要性をさらに徹底し、周知を強化する。
- ④ 青少年とロータリアンが互いに学び合い、共に成長する環境を創出する。

特に、本年度は青少年に対してグローバルな社会への関心を高め、将来の地球環境を考える機会を積極的に提供してまいります。地球規模の課題に目を向け、幅広い視野を持った人材を育成することが、私たちの責務であると認識しています。

具体的な活動計画として、「インターアクト委員会」では、2025年8月8日に筑波国際大学を会場に、つくば東風高インターアクトクラブのホストで年次大会を開催します。地区内の各インターアクトクラブが日頃行っている社会奉仕や国際貢献活動を発表し、相互の交流を深めることで、奉仕の精神をより広く伝播する場とします。また、昨年度に引き続き台湾研修を実施するほか、海外研修などグローバルな視野を養うプログラムの実施にも力を入れたと考えています。

「青少年並びにライラ委員会」では、14歳～35歳のロータリーファミリーや青少年を対象に、2026年5月の開催を目指して準備を進めています。次世代のリーダー育成を目的とした研修プログラムを提供し、社会的責任感と実行力を持つリーダーの育成を目指します。

「青少年交換委員会」は、本年度も海外への派遣や次年度派遣生の選考、オリエンテーションの充実を図ります。異文化理解と国際交流を通じて、国際感覚を兼ね備えた人材の育成を推進します。

また、青少年が主体となって参加する奉仕プロジェクトを通じて、環境問題への理解と行動力を養う取り組みも強化します。持続可能な地球環境を守るために何ができるかを自ら考え、具体的な行動に移す能力を育てます。

ロータリアンの皆様には、本年度も青少年奉仕活動へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。青少年とともに地域社会、そして国際社会の未来を築いてまいりましょう。



委員会の方針と展望 ～ローターアクト委員会

国際ロータリー2820地区
ローターアクト委員会 総括委員長

塚越 俊祐 （つくば学園RC）

ローターアクト委員会年次方針

第一の課題は会員増強です。マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ RI 会長は「会員増強は、私たちの組織の最優先事項であり、最も価値のある資産であり、最大の課題である。」強調されています。そこで、どのように会員増強をするかとの点について以下の方向性をご説明いたします。

まずは、現在いるアクト会員の維持です。2820 地区内のローターアクトクラブは、茨城県北 RAC、水戸 RAC、土浦 RAC、土浦南 RAC、つくば学園 RAC、古河 RAC、下館 RAC、笠間 RAC の 8 クラブ、46 名の若い人が活動しております。昨年、RAC は定款・細則の見直し・整備を行い、水戸 RAC ではクラブがクラブ優秀賞を得られるレベルになっております。各クラブが月 2 回の例会（地区の活動含む）を確実にできる様、提唱ロータリークラブのアドバイザー（顧問）の選任とアドバイザーに対する支援を通じて RAC 例会を充実させて参ります。FACE TO FASU の懇親と RAC 1 人、1 人に役割を振ることがスタートと考えています。

RA が所属組織で、必要とされ、楽しく活動していれば、卒会者を除いての会員の退会は防げます。

会員の拡大は、RA 会員自身が活動を通じて、「わくわく、ドキドキする」楽しい団体であることを体感して、自分の地域友人や学生時代の友人、会社の先輩や同僚を勧誘するのが、1 丁目 1 番地です。

次に、ロータリーが知り合いや知人を通じて、若者がローターアクト活動を通じて、リーダーシップが身につく、国際的視野等の教養が身につく団体だと勧誘すること。

RYLA 参加者や 2820 地区内在住している米山留学生の卒業生、インターアクトの卒業生を誘うことです。

地区ローターアクト委員会では、9 月のアクトの日活動、10 月 26 日の 2820 地区ポリオイベントへの参加、11 月 15 日のウクライナのバスターの講演拝聴した上でのグループ討議と発表の運営、3 月のローターアクト週間の活動、2026 年 4 月 4 日の年次大会を予定しています。

ローターアクト委員会のメンバーもとより水村代表率いるアクト地区約委員が各 RAC を強力に支援してまいりますので、提唱クラブはもとより、RA を提唱していないクラブのご協力・ご支援をお願いします。

1 年間宜しくお願い致します。



委員会の方針と展望 ～ロータリー財団委員会

国際ロータリー2820地区
ロータリー財団委員会 総括委員長

大野 治夫（つくば学園RC）

委員会年次方針

今年度の RI 会長マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏は、会長メッセージの中でロータリーが世界に与えることのできる最大の贈り物は、その会員である。将来のロータリー会員は必ずどこかにいますと言っております。

2025-26 年度の会長メッセージとして「よいことのために手を取りあおう」としております。

新会員の入会数、革新的なクラブの創設、奉仕を通じて人々の人生に変化をもたらすことにより測られるロータリーの最大の喜びの一つ、すなわち世界中に友人をつくり楽しむことを忘れないで下さいとしております。

当地区、2820 地区の瀬戸隆海ガバナーは、地区行動指針を時は今と足元そのことに打ち込む命永久の御命としております。（椎尾弁匡御作）

「行動計画」

四つの優先事項を指針とすることで、より健全なクラブをつくり、すべての人が積極的に参加できる体験を提供し、行動を通じて持続的な変化を生むために人々を結びつけるという国際ロータリーとロータリー財団のビジョンを実行することとなります。

1. 「より大きなインパクトをもたらす」
2. 「参加者の基盤を広げる」
3. 「参加者の積極的なかわりを促す」
4. 「適応力を高める」

「地区行動指針」

1. ポリオ根絶のためのプロジェクト
財団委員会を中心に地区内各奉仕委員会、米山奨学生を対象、全クラブ地域各団体（つくば市内で行う）
2. ウクライナ支援事業のために ICC（国際共

同委員会）設立に参画

国内の多くの地区において支援を行っております。しかしながら夫々の地区で支援を行うには限度があり、支援を受ける地区と支援する側の地区と協定を交わし、ICC を立ち上げ、効果的な支援をするよう推し進める。

3. Diversity（多様性）Equity（公平性）Inclusion（インクルージョン）の促進

4. 公共イメージの向上

5. 会員維持率の向上と増強

6. ローターアクトクラブの活性化

7. 青少年育成事業の推進

8. RLI の積極的参加

9. メークアップの奨励

10. My Rotary の活用推進及び「ロータリーの友」の積極的な購読

11. クラブ優秀賞への挑戦（ガバナー補佐）

12. 国際大会への参加（2026 年 6 月 13 日～17 日に台北で行われます）

13. ロータリー希望の風奨学金支援の継続

「ロータリー財団寄付目標」

- ・年次基金寄付 一人 150 ドル以上
- ・ポリオプラス基金 一人 30 ドル以上
- ・恒久基金（ベネファクター）
各クラブ 1 名以上
- ・ポリオプラス・ソサエティー（PPS）
年間 100 ドル 各クラブ 2 名以上
- ・ポールハリス・ソサエティー（PHS）
年間 1000 ドル 各クラブ 1 名以上

※特に瀬戸ガバナーは行動指針の 1 のポリオ根絶プロジェクトの成功を願っております。次に、PPS の地区 100 名増を期待しております。

以上の様な目標となっております。

皆様どうぞご協力をお願い致します。



委員会の方針と展望 ～米山記念奨学会

国際ロータリー 2820 地区
米山記念奨学会 総括委員長

岩田 光造（水戸東RC）

委員会年次方針

ロータリークラブに入会して数年間、私は「昼食を共にする地域の有志の集まり」という程度の認識しか持っておらず、活動への積極的な参加もほとんどありませんでした。しかし、カウンセラーとして奨学生とクラブの橋渡し役を務めるうちに、ある気づきを得ました。

「私はカウンセラーでありながら、クラブのメンバーのことをよく知らない…」

このままでは「奨学生が不幸になる」と危機感を覚えました。米山記念奨学会の神髄は、会員と奨学生との交流にあります。この日を境に、私はロータリアンとしての自覚を少しずつ持つようになりました。

これまでに4名の奨学生を受け持ち、クラブの一員として彼らを迎え入れる経験を重ねる中で、地区の委員にも参加するようになりました。地区委員として、自クラブの考えに加え、他クラブでの卓話を通じて米山事業への多様な捉え方や解釈の違いなど、さまざまな課題があることにも気づかされました。

米山記念奨学会は、全国で約900名の奨学生を受け入れ、2024年度の事業予算は15億円に達する大規模なプロジェクトです。私たち2820地区では、今年度36名の奨学生を迎えています。

私は今、原点に立ち返り、地区の米山委員や各クラブのカウンセラーの皆様との交流を何よりも大切にしたいと考えています。各クラブの米山委員長やカウンセラーは単年度で変わるため、私が地区委員長を務める間は、年度を超えても積極的に連携し、活動を共にしていきたいと願っています。

また、地区イベント（例：ポリオ根絶運動など）にも奨学生と共に積極的に関わり、米山学友との情報共有と連携の強化も進めてまいります。

最後に改めて、ロータリアンとして未熟だった私に気づきを与えてくれた米山記念奨学会に、そしてその礎を築いた米山梅吉氏と、1953年に東京ロータリーが始め、今日まで大切に紡いできてくださった偉大な先輩ロータリアンの皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

我がクラブ紹介

第 1 分 区 編

日立ロータリークラブ

会長 戸来 徹
幹事 皆川 康博

日立ロータリークラブは1953年6月10日に東京ロータリークラブと水戸ロータリークラブをスポンサーとして25名の会員が参加し発足した、県内2番目、全国103番目のロータリークラブです。現在67名の会員が在籍しています。

今年度のスローガンはロータリーの原点に立ち返り「職業で奉仕しよう」であります。またテーマは三つあり、第1のテーマは「思いやり優しさそして愛」第2のテーマは「いつもにこにこロータリー」第3のテーマは「挨拶は先手必勝」で有ります。最近の会員に感じることは、三つのテーマの部分が年々薄らいでいるのではないかという思いがあります。

会員一人一人がにこにこして豊かで実りのあるロータリーライフを送って頂くことを願っています。

奉仕事業としては、地区補助金を使い少年野球教室を開催、グローバル補助金やWCSにより、タイ、ネパールを支援、フードパントリー事業、水 Rocket 大会などの青少年のための行事への参加、ポリオ根絶のEND POLIOへの積極参加など行い、クラブ奉仕にも力を注ぎ、会員の誰もが満足感を得られるようなクラブ創りを考えています。

また、楽しさや喜び、そして信頼と友情を大切にしています。それを成し得るために、例会時にフリーストークの時間を設けて異職種間の理解と交流を深めていきたいと考えています。クラブ会員の卓話による職業への理解も深めていきたい。また、毎年、各職種において優良職業人を会員推薦により表彰をして、ロータリーの根幹である職業奉仕の崇高さや意欲を鼓舞しています。

日立南ロータリークラブ

会長 佐藤 信彦
幹事 千葉 隆一

私達日立南ロータリークラブは日立ロータリークラブがスポンサークラブとなり 1962 年（昭和 37 年）6 月に茨城県内 11 番目のクラブとして設立されました。

例会場は「要害クラブ」と言いまして、こちらはむかしこの場所に「要害城」という、お城があったことに由来されていると伺っています。元々は、日立製作所の社員の方の福利厚生施設でしたが、最近是一般の方も予約制で利用できるようになりました。立地場所が海に面していて非常に良いロケーションと美味しい食事を提供して頂ける場所で当クラブでも大変お世話になっている例会場になります。

当ロータリークラブの事業に関しましては、長年にわたり日立南ロータリークラブ杯バスケットボール少年団交流会への協賛をしてきました。未来を担う子供達の一つのスポーツに打ち込んでいる姿に心を動かされる思いで、会員一同新たな気持ちになる瞬間でもあります。また社会奉仕の一環で精神障がい者の社会復帰と社会参加を目的に事業を行っています。「NPO 法人日立ふきのとうの会」への継続支援も行ってきました。今年は日立ふきのとうの会で使用しているマシンが壊れてしまい会の皆様がマシンを使つての製品ができないとの事で、当クラブから新しいマシンを寄贈しました。

そして例年地元のお祭り「よかっぺまつり」に参加して、ポリオ募金活動の一環として募金ブースを出展して多くのお客様にロータリー活動のご理解や公共イメージアップを行っています。

この様にこれからも今までの先輩方の教えも大切にしつつ、新しい時代に順応できるロータリー活動を行っていきたいと思います。

高萩ロータリークラブ

会長 平野 浩司
幹事 秋山 順弘

明治 30 年、常磐線の開通により「黒ダイヤの街」として栄えた高萩市。しかし、炭鉱の閉山が続き、1970 年（昭和 45 年）には不況に直面する中、地域の発展に貢献したいとの思いから、日立ロータリークラブから独立し、23 名の会員により高萩ロータリークラブが設立されました。

以来、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、青年会議所の三団体が連携し、地域活性化に取り組んできました。1963 年には KDD による宇宙衛星通信所が開設され、会員にも迎え入れましたが、技術革新の波により 2007 年に閉鎖されました。

高萩市は、太平洋を望む自然豊かなまちですが、近隣の北茨城市や日立市と比べて産業基盤が弱く、将来展望が描きにくいのが実情です。そうした中、高萩ロータリークラブは原点に立ち返り、ボーイスカウト支援、英語スピーチコンテスト、「職業の意義と喜び」など青少年教育に力を注ぎました。

そして 2024 - 25 年度には、大高司郎会員が地区ガバナーに就任し、当クラブはホストクラブとして若い会長・幹事を中心に、力を合わせて活動を進めています。

北茨城ロータリークラブ

会長 小宅 和彦
幹事 蛭田 豊

北茨城 RC は、五浦の地に 1974 年 2 月 18 日、高萩 RC を親クラブとして誕生し、今年で創立 50 周年を迎えました。これも歴代・現会員の皆様のご尽力の賜物と心より感謝申し上げます。現在 26 名の小クラブながら、他クラブに劣らぬ奉仕活動が続けており、以前は勿来 RC と協力し、約 300 名の中学生が参加する野球・テニス大会を開催していました。現在は「チャレンジ仕事アラカルト」や中学生柔道大会を継続。仕事アラカルトでは会員の協力により、配膳、大工、新聞折込、廃棄物選別などの体験学習を提供し、今年は小学生を対象に実施。NHK 等でも紹介されています。柔道大会は高萩 RC と持ち回りで開催し、子供たちの真剣な姿に多くの感動があります。今後もポリオ撲滅の PR とともに、可能な限り事業を続けてまいります。今年度は地区副幹事として他クラブにも参加し、それぞれの事情を考慮したご指導の大切さを実感しました。1 年間どうぞよろしくお願い申し上げます。



日立港ロータリークラブ

会長 勝山 起一
幹事 五来 美奈

我が日立港ロータリークラブは、日立市最南部にあります。

白い灯台、白い砂浜が特徴な久慈浜の海を代表として高台には高鈴山、神峰山に繋がるハイキングコース起点の風神山がそびえ立ち、近隣にはパワースポットのの一つとして有名な大甕神社、泉神社がある穏やかかつ賑やかな場所に位置しています。

創立は 1977 年（昭和 52 年）次年度には記念すべき 50 周年を迎えます。

現在は 33 名（内女性 2 名）。

日立港ロータリークラブの代表的な活動といえば、なんと言っても茨城キリスト教学園高等学校インターアクトクラブとの連携による様々な活動です。地元大みか祭りでの共同奉仕活動（薬物乱用防止、END POLIO NOW 街頭キャンペーン）を初めインターアクト年次大会、RYLA セミナー、台湾研修旅行等、イベントの協賛、参加に力を入れています。

青少年奉仕活動として、日立市全域の中学校野球大会、日立市南部地区中学校女子バスケットボール大会の開催を毎年行っており、地域での代表的な大会として大変喜ばれています。

また、米山記念奨学生の世話クラブとして、相互間国際交流の場にもなり貴重な経験をさせて頂いております。

最後に毎週発行される会員向けの会報も自慢の一つです。会報の一番最後の『～サロンみかの～』をまず初めに読んでしまう程、趣きある編集後記に毎回関心させられます。

魅力いっぱいの我が日立港ロータリークラブです。

日立北ロータリークラブ

会長 安藤 雅樹
幹事 高木 龍一

海と山に囲まれた美しい日立市に、第一分区の6番目として設立されたのが40周年を迎える日立北ロータリークラブです。当初40名の会員でスタートし現在27名で、そのうちチャーターメンバーが3名です。今年度は国際ロータリーに承認された日立北さくらロータリー衛星クラブがスタートし、8名の若く新しい会員が生まれました。これからの活動が期待されます。例会は月に3回水曜日に行われています。

職業奉仕としては、会員の企業を訪問し、事業の展開を理解することや問題点などを話し合います。

社会奉仕事業として18年を迎えた「奥日立きららの里でのホタルの里整備」では、草刈りや土砂撤去などを行い、毎年6月にホタル観賞会を開催し300名ほどの来場者があります。来場の子供たちは暗闇に飛び交い明滅するホタルの光に歓声をあげています。

青少年奉仕としては、子供たちにチームプレーやフェアプレー精神の大切さ素晴らしさを伝えたいとの思いで、2002年から名球会江藤慎一記念杯少年野球大会を開催しています。

国際奉仕では1990年に第3810地区（フィリピン）のパンダイピラ・マニラロータリークラブと姉妹クラブを締結し、この交流は現在も継続しています。

以上これからも多くの奉仕事業を行い、より良い社会づくりに貢献していきます。

日立中央ロータリークラブ

会長 小澤 仁康
幹事 澤島 英樹

日立中央ロータリークラブは1993年に創立され、日立市内で5番目のクラブとして発足しました。現在は男性18名・女性3名、計21名の会員が所属し、「地域と共に歩む奉仕」を理念に、地道で実効性のある活動を継続しています。

主な活動のひとつである「会瀬海岸清掃」は、自然環境保全と地域美化を目的に毎年実施しています。また、防犯活動の一環として作成している「こども110番」チラシは、市内の小中学校に配布され、いじめや家庭、健康、進路などの悩みに対応する無料相談窓口を紹介しています。誰にも言えずに悩む子どもたちや保護者に寄り添い、地域ぐるみで子どもを見守るネットワークづくりにも貢献しています。

さらに、子育てや健康に関する相談・情報提供を通じて、地域の安心づくりにも尽力。文化継承活動では、「ひたち郷土かるた」を用いた学習・交流を支援し、例年1月に日立市池の川さくらアリーナで開催される「ひたち郷土かるた大会」には多くの子どもたちが参加しています。

例会では、会員同士の親睦と奉仕への理解を深めるため、多彩な卓話や意見交換を実施。また、第1分区の7クラブとも活発に連携し、合同例会や奉仕活動に取り組んでいます。

今後も「継続と発展」を合言葉に、時代の変化に柔軟に対応しながら、地域社会に寄り添う奉仕活動を続けてまいります。



ガバナー 回顧録

国際ロータリー 2820 地区
地区諮問委員

北村 仁（水海道RC）

思い出

国際ロータリー第 2820 地区 2001 ～ 2002 年度ガバナー 水海道ロータリークラブ 北村 仁です。
思えば地区ガバナーを拝命して 4 半世紀になろうとしている、正にロータリーが変革を遂げ様とする第一歩の時期ではなかったろうかと思われる。

RI 会長はリチャード・キングと言うアメリカの方で大変個性的な会長であった。

テーマも「人類が私たちの仕事」であり、それまでの歴代 RI 会長の呼びかける様なテーマとニュアンスが違いどう理解し行動すれば良いか大いに悩んだ、出典がイギリスの作家チャールズ・ディケンズの作品クリスマス・キャロルからと判明し、早速作品を読みなんとなく理解に近づけた。

就任して間もない 9 月に航空機によるニューヨークビルの爆破テロ事件が起きた、世界中で疑心暗鬼が広まり、諸々の行動に制約が加えられ、ロータリーとして地区の皆さんとどう対応すべきか悩ましい日々であったが改めて相互理解、世界平和の重要性を痛感した出来事であった。

理事会においては我々日本のロータリアンが最も心の拠り所としていた「He profits」の標語が廃止の提案がされるとの噂が広がった、これに危機感を持ったガバナー会をはじめ日本全地区のガバナーによる存続署名活動が行なわれ当時の板橋理事の大変な尽力によって存続とされ、胸をなで下ろした。しかし日本語訳には変更がなかったが「He profits」が「One profits」に書き換えられた。何ともすっきりしない結末であったが今後のロータリーの行く末を占うような感じがしたのは私だけでは無かったかもしれない。

DLP 採用も最終期限年度であった、当地区に標準 DLP を採用することは困難であるとの事から当地区の実情に合った DLP 案を作ろうと言うことで故斉藤 PG を委員長として DLP 採用検討委員会を立ち上げた。

大変なご苦勞をお願いして当地区独自の案を RI に提出して認可を得る、そのご苦勞に感謝申しあげたい。この DLP は現在もそのまま採用されていることと思う。

これに伴い各分区から選出された「分区代理」の皆さんが突如「ガバナー補佐」となってしまった。業務内容も様変わりし、戸惑いの中にミーティングを繰り返し互いに理解を深めながら互いに成長し、地区運営に携わって頂いた。お陰様でお互いの友情もより深まり任務終了後も親しくお付き合いを頂いている、私の宝物である。

その外にも、「区域限界」の廃止、「会員一業種一人」の見直し等戸惑うことばかりであった。ポール・ハリスの言葉どおりロータリーは時代と共に変わらなければならない、そのスピードについて行くことに懸命な昨今である。

最近、「職業奉仕」という言葉がついぞ聞かれなくなった一抹の寂しさを感じざるを得ない。2025 年規定審議会において提案された職業奉仕委員会設置案も否決されたが職業の高潔性を求め、自身を磨いていく事が世界平和にもつながって行く事と信じている。

本年度、当クラブより二代目のガバナーを排出することになった、瀬戸ガバナーには変革するロータリーにおける 2820 地区のリーダーとして活躍されることを期待する次第です。



ガバナー 回顧録

国際ロータリー 2820 地区

地区諮問委員

片岡 信彦 (土浦南RC)

2002-03 年度ガバナーを務めました片岡と申します。23 年前のガバナーですから記憶薄れていることも多々あるかと思います。私はガバナーになる前は新世代（青少年）奉仕専門でした。4 年間インターアクト地区委員（長）、3 年間ローターアクト地区委員長、そして 1 年間新世代（青少年）総括委員長を務めました。

しかし私は財団については全く無知でした。転機はガバナーエレクトの時に訪れました。私のガバナー年度の国際ロータリーの会長はタイ国のビチャイ・ラタクルという方でした。そして友好地区である 3350 地区の窓口クラブからソムサクガバナー、チャイワイ地区幹事（後にガバナー）が輩出されていました。2001 年 10 月ガバナーエレクトの時に タイのスリオン RC の認証場伝達式に出席し国立聾啞学校にリハビリのための公園施設を寄贈する引き渡し式に立ち会いました。財団のマッチンググラント（グローバル補助金の前身）の事業でした。目の見えない子どもたちが 水道、シャワーや障害物のある道路などをスイスイと進む姿に感動を覚えました。

ガバナー就任年度ロータリー財団はポリオプラスについて 2 度目の寄付金要請をしてきました。1 人当たり 150 ドルでした。国際協議会などに出席し 2820 地区がマッチンググラントについて日本では群れを抜いて輝かしい実績を残していることを学びました。

私は 1 年で募金を達成することを決意し同期のガバナーから資料を取り寄せ諮問委員会でビデオを見ていただき協力をお願いいたしました。

ガバナー公式訪問を終わった後、パストガバナー、ガバナーエレクトとガバナー補佐、財団の地区委員 3 名で全クラブを訪問する準公式訪問を実施していただきました。年次寄付額を落とさずにポリオ寄付を達成すると言うことは大変なことだと思います。長谷川パストガバナーは当時ガバナー補佐でしたが自クラブ以外 70 回くらい訪問したと話されていました。各クラブは音楽祭、ダンスパーティなど様々な趣向を凝らし目標達成のために努力くださいました。

結果的に 1 クラブが 3 年誓約でしたが残りは全クラブ目標達成してくださいました。その結果 2820 地区は日本全体で 1 人当たり年次寄付日本一を達成する事が出来ました。この結果がパストガバナーになって RRFC（ロータリー財団地域コーディネーター）、恒久基金日本委員会そしてロータリーの友委員会と私のロータリー人生を豊かにしてくれたことと確信しております。

Rotary
District 2820



国際ロータリー
第 2820 地区

2025-2026 年度

地区大会

UNITE FOR GOOD

よいことのために手をとりあおう

2025 **11.15** [土]

大会1日目

つくば市ノバホール

本会議 10:30~16:20
(第2回会長・幹事会)

ホテル日航つくば

晚餐会 16:50~20:00

2025 **11.16** [日]

大会2日目

つくば市ノバホール

本会議 8:40~13:00

ホテル日航つくば

大懇親会 13:20~15:00



記念講演

11/16 sun.
12:00 ▶ 13:00

「ニュースから
未来が見える」



池上彰氏

11 月
15 土
日

大会 1 日目
つくば市ノバホール
ホテル日航つくば

11 月
16 日
日

大会 2 日目
つくば市ノバホール
ホテル日航つくば

会長・幹事会 つくば市ノバホール

9:30 登録開始
10:30 開会

RI 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会
ホテル日航つくば

16:50 登録開始
17:20 RI 会長代理ご夫妻入場
20:00 閉宴

本会議 つくば市ノバホール

8:00 登録開始
8:40 開会

記念講演 つくば市ノバホール

12:00~13:00
「ニュースから未来が見える」
ジャーナリスト 池上 彰 氏

ごあいさつ



ガバナー
瀬戸 隆海



実行委員長
青木 清人

「新しい出会いと感動」をテーマの下に開催する RI 2820 地区大会、いつもと違う友との出会いを求めに来ませんか。今回は、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、米山奨学生、財団奨学生の皆さんにもご参加して頂き、ウクライナのロータリアンとの交流の中で、平和の尊さを考えてみたいと思います。日本の戦後 80 年という節目の年だからこそ、語り合いましょう。

大懇親会 ホテル日航つくば

13:20 開宴
15:00 閉宴

記念野球大会

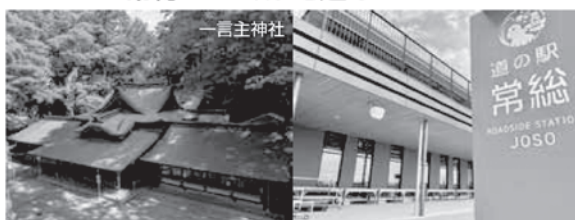
2025 年 10 月 5 日 (日)
会場：石下球場、原山球場

記念ゴルフ大会

2026 年 4 月 20 日 (月)
会場：水海道ゴルフクラブ

エキスカーション

2025 年 11 月 15 日 (土)
///// 常総・つくばを巡る /////



ホストクラブ：水海道ロータリークラブ お問い合わせ先 TEL0297-21-3655 ガバナー事務所

8月ガバナー公式訪問・研究会日程表

1	金	勝田 RC	12	火		23	土	
2	土		13	水		24	日	米山奨学会研究会
3	日		14	木		25	月	牛久RC
4	月	水戸さくら RC	15	金		26	火	友部RC
5	火		16	土		27	水	大子RC
6	水		17	日		28	木	境RC
7	木	土浦 RC	18	月		29	金	龍ヶ崎中央RC
8	金		19	火		30	土	
9	土		20	水		31	日	RAC合同
10	日	第1回会長・幹事会	21	木				
11	月		22	金				

ガバナー事務所からのお知らせ

夏季休暇

8月13日（水）～8月17日（日）

お詫びと訂正

月信7月号P20、第7分区守谷RC会長のお写真が間違っって掲載されておりました。お詫び訂正いたします。まことに申し訳ございませんでした。

（正）

守谷 RC



会長
片桐 武美

月信 8月号編集後記

「不易流行（ふえきりゅうこう）」時代の中で大切に続けていくこと、時代とともに変えていくことを意味します。事業先の経営指針や心得として取り入れています。ロータリー活動、ガバナー月信内容にも通じるものがあることと思います。瀬戸ガバナー年度月信発行にあたり、趣旨にご理解賜り、ご多忙の中、原稿提出にご協力いただきましたこと、編集員一同心より感謝申し上げます。

ガバナー月信委員会 副委員長 石塚克己

国際大会 速報!

in カルガリー



※国際大会の詳細報告につきましては、次号以降掲載予定です。